

# BELL

<編集・発行>No.254 2024/10/21 発行

編集：一橋大学附属図書館

学術・研究推進部 学術情報課

電話：042(580)8247

Mail：lib-contents@ad.hit-u.ac.jp



Open Access Weekは、毎年10月に世界各地でオープンアクセス（OA）に関連するイベントを開催する取り組みです。今年は、Open Access Weekに合わせて、2024年度から開始したAPC\*支援制度（転換契約）を利用して、論文をOA出版した5人の先生方にインタビューをしました。

\*APC：論文掲載公開料（Article Processing Charge）

## Open Access Week

2024/10/21-10/27

### 転換契約によるAPC支援制度について

(※内容は全て発行日時点のものです。)

#### ・ どんな制度？

大学（図書館）では毎年ジャーナルを購読するための費用を支払っています。これに、OA出版するための費用を上乗せしてあらかじめ支払う契約を「転換契約」と言います。購読費と出版費をセットで契約することで、通常のAPCよりも安価に、論文をOA出版することができます。

#### ・ 対象の出版社はどこ？

現在受付中の出版社はElsevier社です。2025年1月より、Springer Nature社とTaylor & Francis社の受付を開始する予定です。

#### ・ 対象かどうかはどうやって調べる？

図書館のウェブサイトに対象誌のリストを掲載しています。

<https://www.lib.hit-u.ac.jp/about/seika/supportoa/>



#### ・ 誰でも無料でOA出版できる？

教授のみ一定額の著者負担金を求めています。この負担金は、この制度によりOA出版を継続的に支援していくため、図書館が購読費に上乗せして支払った費用の充足にあてています。教授以外は無料です。若手研究者の積極的なOA出版を支援しています。

#### ・ 申請する必要がある？

申請は不要です。出版社の投稿システム上の、出版の方法を選択する画面で、出版社と大学との契約により、APC費用が補填される旨のメッセージが表示され、OA出版を選択するとAPCの金額が0円と表示されます。その後、図書館からメールで詳細をご連絡いたします。

# 「発展途上国の研究者など多様な研究者層にも研究成果が届きやすくなる」

経済学研究科  
加納 隆 教授



**Q：今回OAにした論文はもともとOA出版の予定でしたでしょうか？それともAPC支援制度があったから、OA出版したのでしょうか？**

もともとOA出版する予定ではありませんでした。というのもOAの効果がまだよく見えていないからです。現在進行中の研究に関しては、プレプリントサーバー、ワーキングペーパー、国内外の学会などで発表することで、研究者コミュニティに広まっていきます。特に経済学の分野では、研究開始からジャーナルにアクセプトされるまでの期間が比較的長いので、出版された時点では、もう別の研究を始めていたりします。このように、研究と出版の間の時差が大きいので、最終的な査読論文をOA出版することの真のメリットは何か考えています。

OA出版されると世界中のどこからでも誰でもアクセスできるようになるので、発展途上国の研究者など多様な研究者層にも研究成果が届きやすくなり、論文の認知が高まり引用が増えるということはあると思います。また以前と比べると、読者としてもOA論文はかなり増えてきているということを実感しているので、今回のAPC支援制度で、OA出版の機会が提供されることは研究者としてありがたいし、支援制度が拡大していくことは良いことだと考えています。

# 「面識のない研究者からコメントがありました」

経営管理研究科 / イノベーション研究センター  
Byeongwoo Kang 准教授



**Q：プレプリントサーバをどのように使っていますか？**

今回の論文は、IIRのディスカッションペーパーシリーズとSSRNに掲載しました。SSRNへの掲載は、オランダの共同研究者からの勧めがありました。面識のない欧米の研究者からボランタリーにコメントがあり、インパクトのある研究をしたのだという印象がありました。読者としては、最初からプレプリントサーバを読みに行くということはありません。まずは論文出版されたものを探し、読めなかったときにディスカッションペーパーを探します。主要なジャーナルは概ね読めており、図書館では主要なジャーナルは押さえられていると感じています。

**Q：投稿先をどのように選んでいますか？**

業界のインパクトです。今回掲載されたジャーナルは、イノベーション研究の分野ではトップジャーナルです。できれば、毎度トップジャーナルに掲載をしたいですが、その都度実施した研究内容や成果に見合ったジャーナルを選んでいきます。分野特有のランキングもあるし、私自身もエディターをやっているので、レビュアーを探せるか、という点を考慮することもあります。インパクトは必ずしもインパクトファクターと連動するわけではないので、インパクトファクターを参考にしないことも多々あります。

**Q：手続きで煩雑だと思った点は？**

なかったです。ワンクリックで簡単でした。最初は、サイト上に「あなたの所属機関は契約を結んでいるので無料でOAにできます」と出てきたので、クリック詐欺のような怪しい印象を受けましたが（笑）

# 「世界的にはOA出版する方向に進んでいるし、日本でもそうなると聞いた」

経営管理研究科  
齊木 吉隆 教授



## Q: 今回のAPC支援制度を知ったきっかけはなんでしたか？

確かサイエンス系のニュースか何かで、そういったシステム(「転換契約」)があるという記事を目にしたことがあり、この制度を利用する前から知っていました。海外の研究者と共同研究をすることもありますが、彼らの方がよりOAの論文を出版しているように思いますし、実際外部資金などの研究費を申請する際に、OA出版のための予算をきちんと計画に計上していたりもします。世界的には論文をOA出版する方向に進んでいるのだと感じていますし、日本でもそうなるというようなことを聞いたことがあります。(注)

今まではAPCが高すぎるので、敢えて論文のOA出版を選んだことはありませんでした。私が普段論文を執筆する分野(数学、物理学)ではプレプリントarXivで公表すると、比較的多くの研究者にみてもらえるということがありますが、今回の論文は、金融・経済系の論文だったので、その分野の研究者の目に触れる機会を増やすために、OA出版する価値は十分にあったと考えています。

(注)「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」(令和6年2月16日統合イノベーション戦略推進会議決定)

[https://www8.cao.go.jp/cstp/oa\\_240216.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf)

及び基本方針の実施にあたっての具体的な方策(令和6年2月21日関係府省申合せ)

[https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6\\_0221/hosaku.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf)



# 「研究者の枠を超え、多様な層に読んでもらうメリット」

経済研究所  
臼井 恵美子 教授

## Q: 今回のAPC支払い以外でAPCを支払ってOA出版された経験はありますか？

過去に論文をOA化したことがあります。OA化により、誰でも自由に論文にアクセスできるようになり、その結果、多くの人に知ってもらっていると実感しました。例えば、母乳育児をテーマにした論文がOAとして公開されていたことで、日本母乳の会の事務局長がそれを見つけて、今年の8月、日本母乳の会でその論文について講演する機会をいただきました。これは本当に素晴らしい経験で、とても楽しいものでした。普段は交流する機会が少ない母乳育児に関心のある医療関係者の方々と多くの情報交換をすることができました。皆さんも、「母乳育児に関心をもっている経済学者もいる」と、新鮮に感じていただけたようです。

## Q: 転換契約によるAPC支援を知ったきっかけは何でしたか？

教授会で知りました。ただ、転換契約の仕組みや、ジャーナルの購読とOA出版がどのように結びついているかについては、今回のインタビューで詳しく教えていただきました。大学の研究者に対しては、転換契約について改めて丁寧に説明し、その理解を深めてもらうことが大切だと思います。特に、APC支援を利用することで、研究者が本来負担する予定だった高額なAPC費用が軽減されます。現在の規定では、教授の場合、その負担額は10万円となっていますが、これは大学側が出版社に支払うOA出版費用と試算上ほぼ同額であることも説明した方がいいと感じています。

# 「契約していない論文にもアクセスできる」

ソーシャル・データサイエンス研究科  
本武 陽一 准教授



## Q: 今回出版された論文はもともとOA出版の予定でしたか？

OAが選択可能な場合は、基本的にはOAにしています。OAにして悪いことはないと考えているため、この支援制度がなくても、APCを支払ってOAにするつもりでした。理工系は一橋からはアクセスできない分野の論文も多いため、OAになっていると自分の論文にアクセスできなくなるという事態も防げます。

## Q: プレプリントサーバをどのように使っていますか？

私の研究分野は多岐にわたりますが、そのうち物理学や機械学習分野はarXivというプレプリントサーバに上げるカルチャーがあります。読者としてもarXivは使ってはいますが、最新版であるという保証がないため、読めるのであればジャーナルに掲載されたバージョンが読めるとよいと思っています。

## Q: 投稿からアクセプトまで、どのくらいの時間がかかりますか？

分野やジャーナルにもよる部分は大きいですが、平均すると半年程度、1年はかからないことがほとんどです。今回の論文は様々な事情があってアクセプトまで2年ほどかかりましたが、これはかなりイレギュラーなパターンです。早いものだと、3か月ほどでアクセプトされるものもあります。私たちの分野では修士や、早ければ学部生でも論文を書いており、投稿先の雑誌の多くがQ1ジャーナルに含まれています。修士の間に1本は論文を出してもらおうと思っていて、このサイクルが回ってくると転換契約の利用も増えてくるのではないかと思います。学生さんにはどんどん利用してもらいたいですね。

## その他のAPC支援について

学内助成による支援を行っています。  
詳細は、以下にお問い合わせください。

- ご所属の研究科事務室
- 学術・研究推進部 研究支援課 研究協力係（学内助成金）  
res-kg.ml◎ad.hit-u.ac.jp（◎を@に変更してください）

## Open Access Week 館内展示

附属図書館1階Yomoccaコーナーで展示を開催します！  
2024/10/21～11/30（予定）

昨年のOpen Access Week展示の様子 →

